



## 「私が支えられていること」

福岡いのちの電話理事

**楯林 英晴**

(福岡県精神福保健福祉センター所長)



私と「福岡いのちの電話」とのかかわりは平成25年から始まりました。それから6年の間に福岡いのちの電話では、いろいろな変化がありました。インターネット相談が開始され、また、ボランティア相談員の募集のため広報に一層力がそそがれています。一方で、理事会や教育委員会で真剣に話し合われるのは、いのちの電話の使命は変わらず、電話相談のボランティアとして「聴く」ということの基本を大事にする、という姿勢の重要性です。これは変わらないこととどうか、その姿勢を保つために常に努力し変化していることです。

話は変わりますが、私が自分の人生上で「あってよかった」と折に触れて思うことを一つご紹介します。それは“家族のように思い行動してくれる他人”の存在です。すぐに2人が思い浮かびます。一人は15歳の時に出会った友人です。初めからそんな友達だったはずはないですが、相手はこちらのことを見通しているようでいて、それでいながら互いにあたかも初めて人に話すようなことを口にしたたり聴かれたりしたような、話す勇気と受け入れられた手応えと、自分の知らないことに目を見開かれる思いとを高校の3年間繰り返していました。性格や持っている能力や経験が違うにもかかわらず、相手はいわばもう一人の自分だった

と思います。その友人が今でも当たり前のように上手に近況を聞いてきます。“家族のように…”のうちもう一人は30歳余り年上の、おしゃべりでおせっかいな面を持つ女性で、留学先で大変お世話になりました。こちらを思う心情がいつも十分に伝わって、それに励まされるようにして私もその人のみならずその人の周囲の人に対して、親切に動くことになります。二人ともすぐ会える距離には住んでいませんが常に私を支えてくれており、たぶん私もいくらか彼らを支えていると思えます。

人との出会いは偶然なのですが、それでいて「私だったから出会った」と思えることは貴重だと思います。人はそのような他人を求めており、ある人にとっての「かかわりのある他人」になることは社会貢献だと思います。ある人が自分特有の悩みを抱えてやむにやまねず勇気を出して、「いのちの電話」に電話をかける。この行動が、<話が聞き届けられた>という実を結ぶことで意味を持つ。それが、ある人が生き延びることにつながる場合があると思います。

私は今後、「福岡いのちの電話」に関係する人や活動にさらに親しみつつ、よりよく貢献したいと願っています。

# 2019年度事業計画を紹介します

「福岡いのちの電話」では以下の取り組みが行われます。

1. 相談事業の充実
  - (1) 電話相談
    - ・24時間年中無休体制の円滑な維持のために十分なボランティア員数の確保に努める
    - ・環境の整備を図り、より質の高いサービスを提供できるよう努力する
  - (2) インターネット相談
    - ・インターネット対応の相談活動として、パソコンによるメール相談を継続する
    - ・SNSによるチャット相談への参加継続（厚労省補助事業）
  - (3) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」への参加、実施（厚労省補助事業）
2. 電話ボランティア員の養成・研修とサポートシステムの充実
  - (1) 電話相談
    - ① ボランティア員の養成研修を実施
      - ・第44期生の養成実施（2018年10月3日～2020年9月）
      - ・第45期生の養成実施（2019年10月開講予定）
      - ・電話ボランティア養成サポーターによる養成講座の運営補助
    - ② ボランティア員の活動更新
      - ・全体研修（年4回）の実施
      - ・フリーダイヤル研修（日本のいのちの電話連盟）の実施
      - ・グループ・スーパービジョン（9グループ月1回）の実施
    - ③ 電話ボランティア養成サポーターの新規養成ならびに継続研修講座の実施
  - (2) インターネット相談
    - ① 相談員の養成
      - ・ネット相談員養成研修を実施（連盟主催の養成講座）
    - ② 相談員の継続研修
      - ・継続研修の実施（年2回、連盟主催、福岡主催）
      - ・インターネット相談運営委員会への参加継続（連盟主催）
  - (3) その他の研修を推進する
    - ・自主研修会等の実施
    - ・「リフレッシュワーク」等の実施
    - ・全国研修大会等への参加を推進
  - (4) 電話ボランティア員のケアシステムの充実
    - ・ボランティア員のケア研修の実施
    - ・強いストレスを受けたボランティア員へのスーパービジョン実施
3. 広報活動のより一層の推進
  - (1) 「福岡いのちの電話会報」の年4回発行
  - (2) 「福岡いのちの電話」紹介リーフレットの発行
  - (3) 事業報告書の発行
  - (4) 新聞・テレビ等を通じての広報活動を実施
  - (5) ホームページによる広報
4. 募金活動のより一層の推進
  - (1) 安定した運営のために、資金確保に向けた募金活動を鋭意、推進する
  - (2) 後援会組織を充実し、連携強化により組織の活性化を図る
    - ・チャリティイベント等の開催
    - ・事業ボランティア活動の充実
5. 各種委員会の開催
 

理事会、評議員会、教育委員会、相談活動運営委員会などの各種委員会を定例的に開催し、組織を充実させ民主的に運営する
6. 会員相互の親睦と活動の活性化
  - (1) 福岡いのちの電話会員総会を開催
  - (2) 内部広報誌「りーんりん」の随時発行
  - (3) 班（曜日班、活動班）活動の充実と活性化による相談員相互の交流促進
  - (4) 「開局記念の集い」の開催
7. 統計資料の整備充実
 

相談事業における統計資料を整備するとともに内容の精密な分析等を行う
8. 他の相談機関等との連携
  - ・他の電話相談機関、関連機関と緊密な連携に努め、社会資源資料の充実を図る
  - ・関係機関会議への出席
9. 自殺防止対策啓発事業への取り組み
  - ・市民、地域に対し、自殺防止に対する関心を高め理解を深める事業を行う
  - (1) 自殺防止公開講座の開催
  - (2) 福岡県自殺防止啓発事業への参加
  - (3) 福岡市自殺対策事業への参画
  - (4) 企業、団体に向けたメンタルヘルズ講座の開催
10. 講師等の派遣を行う
  - ・支援団体等からの要請に応じ、卓話や講演などを行う

## 予算書

勘定科目		2019年度当初予算(1)	2018年度補正予算(2)	増減(3)=(1)-(2)
事業活動による収支	事業収入	5,950,000	6,017,421	△ 67,421
	寄付金収入	10,460,000	10,450,000	10,000
	受取利息配当金収入	10,000	6,300	3,700
	その他の収入	1,870,000	1,840,000	30,000
	事業活動収入計	18,290,000	18,313,721	△ 53,721
	人件費支出	4,976,000	4,784,500	191,500
	事業費支出	7,151,000	7,163,421	△ 12,421
	事務費支出	6,163,000	6,343,100	△ 180,100
	事業活動支出計	18,290,000	18,291,021	△ 1,021
	事業活動資金収支差額		22,700	△ 52,700
予備費支出	500,000	1,270,000	△ 770,000	
当期資金収支差額合計	△ 500,000	△ 1,247,300	747,300	
前期末支払資金残高	3,981,575	5,228,875	△ 1,247,300	
当期末支払資金残高	3,481,575	3,981,575	△ 500,000	



## 2019年 第1回全体研修の開催を報告します (研修運営班)



講師：加藤 博仁氏

吉備国際大学心理学部教授、  
岡山いのちの電話スーパーバイザー

5月18日にあいれふ講堂（福岡市健康づくりセンター）において、第1回全体研修が開催されました。「頻回および攻撃的通話者への対応と支援」というテーマで、相談員泣かせの事例を勉強しました。頻回通話者の問題性と、その理解から対応と支援までの講義の後、大半の時間が割かれたロールプレイングで対応と支援の難しさを実感しました。

頻回通話者は、実生活の中で“社会適応が困難な未熟な人格の持ち主”であり、電話相談員との関わりが唯一の自分の要求を充足できる場であるため、相談員はそのことを理解しつつ対応する必要があります。とは言っても、相談員の受容的、共感的な姿勢が掛け手主導にさせ、感情的、攻撃的になることが、私たちを困惑させる事例になっています。

「掛け手が一方的にしゃべり相談

員が受け身になる→以前掛けた相談員の対応を非難する→相談員に不手際を謝らせる→注文を付ける・不快感を示す・恫喝する→攻撃が始まる→ダメ押しする」という今回示された事例は、一般的な攻撃的電話への対応にも通じると思いました。

対応と支援では、長期的な目標と視点を持ってかけ手に関わる、相談員は相談のイニシアチブを握る、必要に応じて自分の感情や意思を表現する、場合によっては会話の中断を視野に入れる、ということでした。以前の研修で“傾聴だけでなく対話も必要”ということ学びましたが、攻撃的な電話ではもう一歩踏み込む必要があるという気付きを得ることができました。

ロールプレイングで相談員役をした時、“相談のイニシアチブを握る”ことを意識して対応したところ、見事に丸く？ 収まりました。かけ手の相談員が頻回通話者になり切れないのでうまく行って当たり前ですが、それでも研修で得たことの手ごたえを感じることができました。



加藤講師の話に聞き入る参加の皆さん

### リメンバー福岡 自死遺族の集い

自死遺族が苦しみや悲しみを語り合う場の必要性を感じ、2004年9月に発足。福岡市精神保健福祉センターの支援を受けながら、2カ月に1度、大切な人を自死で失った遺族が語り合い、同じ感情を共有することで、心の安らぎを取り戻す活動

### <他活動ご紹介>

が行われています。福岡県内外から毎回20名ほどの方が参加されるとのこと。単に慰め合うだけでなく自分の感情を整理していく大切な場となっているそうです。



福岡いのちの電話養成講座講師

松崎 佳子

(広島国際大学特任教授)



## 「SOSに耳を傾ける」

幼い子どもが虐待でいのちを落とす痛ましい事件が相次いでいます。

児童相談所における虐待相談件数は、統計を取り始めた1990(平成2)年度は1,101件でしたが、2017(平成29)年度は133,778件と年々増加し続けています。また、厚生労働省は、児童虐待による子どもの死亡事例検証委員会報告も出していますが、年間約50人前後、1週間に1人以上の子どもたちが虐待で死亡している状況もここ10年間続いています。

子ども虐待の要因の一つとして、「家族の孤立」があります。祖父母や親戚との関係はもちろん、地域との関わりがほとんどなく、育児や家族関係に悩み困難を抱えつつもなかなかSOSを発信できない家族が多い状況です。家族を地域の一員としてどのように支援し、子どもの健康と成長を保障していけるかは地域の課題でもあります。児童相談所や市町村を中心に地域の医療機関や学校、保育所、保健福祉センター、民生・児童委員など関係機関の構成員全体が守秘義務を守りつつも、その中で情報の共有を図り家族や子どもへの支援をきめ細かく行うことが求められています。

子どものSOSも「助けて」という言葉で発せられることは少なく、親の不適切な言動を自分が悪い

からと受けとめている場合もあります。むしろ、子どものSOSは落ち着きがない、万引きや家出、友達とのトラブルなど、大人から見ると問題行動として出されることが多い状況です。子どもの言動に耳を澄まし目を凝らしてSOSを汲み取る専門性と想像力が必要です。

いのちの電話は、大人が悩んだとき、自殺を考えるほど追い詰められたとき、SOSを発信し、受け止めてもらえる場です。大人は言葉を持ってはいませんが、悩みが深くなるほどそれを適切な言葉で話すことは難しい場合が多々あります。とりとめのない話の中や、何度も繰り返して話されるつかみどころのない話の中に、通話者の深い悩みが隠されていることもあります。電話の向こうにおられる通話者の言葉と息遣いに誠実に丁寧な心を添わせることが求められています。私は以前、相談員さんたちのグループスーパーバイズを担当していましたが、自分の電話対応を振り返り、これでよかったのか悩みつつ報告される方が多いのが印象的でした。通話者の言葉一つひとつを大切に受け止め、仲間と共有し検討する中で気づきや学びが、相談員さんたちの専門性や想像力を高めていく事に繋がっていると思っています。

## 福岡いのちの電話 ボランティア募集

〈ただいま募集中!〉

ネット上で募集内容を見ることができます。  
下記のURLにアクセスしてください。

<http://www.f-inochi.org/bosyu.html>

1人で抱えきれない悩みを誰にも相談できないとしたら、孤独の淵に沈んでいくような気持ちかもしれません。そんな時、いつでもかけられる電話があれば……。

福岡いのちの電話は、年中無休の24時間体制。電話ボランティアは一期一会で電話に向き合い、聞き、聴くことで繋がっていきます。

そんな電話ボランティアを支える事業ボランティア。毎年、2つの種類のボランティア員を募集しています。やりがいのあるボランティアにチャレンジしてみませんか。養成研修を受けながら、仲間にお入りください。お待ちしております。

## ＝リフレッシュ研修＝

### 第39・40期生の語り合いの場になりました

電話ボランティア員として認定を受け、数年を経て活動に慣れた頃合いに開催される「リフレッシュ研修」は2018年度で4回目。毎年、対象の期生が研修内容、日程、講師選定等を企画し実行しています。3月16日(土)九州キリスト教会館にて、金子周平氏を講師に迎えて行われました。以下に参加者の感想を紹介します。



金子 周平氏

福岡いのちの電話スーパーバイザー  
(九州大学大学院准教授)

39、40期生のリフレッシュ研修に参加した。休務中の方の参加もあり、徐々に同期に会い、何かほっとする。40期には、初めてお会いする方もあり、男性が多くて驚く。期が近いというだけで親しみを感じる不思議な気持ちを味わいつつ研修が始まった。

各自、応募動機の作文を読み、初心を思い出す。次に、グループをかえながら、3回のプレーストリーミング！ 各々の悩みも共通することが多い。金子先生もグループに入られ、話した人一人ひとりに納得できたかを確認しながら話されるのが印象的だった。聴いてもらった感じを実体験した。

主訴は、できるだけ通話者の言葉を使うこと、相談員も人間だから、自分らしさを大切にすること、長い事例で書ききれないときは、ポイントを絞ってSVに出すのもよいのでは？ などの意見があり、なるほどと思う。

わいわいと、たくさん話し、たくさん聞き、各々の場所で頑張っている姿を見て、元気をもらって帰った。

39期 A. U

2019年3月16日(土) 13時から16時まで開催された「39期・40期のリフレッシュ研修」に参加しました。「いのちの電話」に関わって早いもので4～5年も経過したのかと思いつつ、同期の相談員と徐々に再会する楽しみもありました。

最初に応募動機のコピーをいただき読み返してみたところ、応募の時に思っていたことと実際に電話を受けるようになってからの今の思いにはかなり違いがありました。その後、3班に別れて「初心の振り返り」

「自己流を解消するために」、「継続的な悩みの解消へ」、「組織として、相談員としての10年後のビジョンは」のテーマで30分間ずつのプレーストリーミングをメンバーを変えて3回行いました。6～7人

のグループでそれぞれの思いや悩み、初心の振り返りなどさまざまな話ができ3回ともあっという間の30分間でした。

初心を振り返ることができ、今後の活動につながる研修で、とても有意義な時間を過ごせました。今後も定期的に10年後？ 15年後？ 同期の相談員を対象とした研修をしていただければありがたいと思いました。

40期 K. H



グループでの討論の様子

# ご援助 ありがとうございます

## 寄附感謝報告 2019年3月1日～2019年5月31日（敬称略・順不同）

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

\*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。  
また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



千人会					
三木 宏(平尾山病院)	10,000	野田尚武	10,000	山田 眞(櫛大丸別荘)	20,000
藤原 繁	10,000	北野亀三郎(北野クリニック)	10,000	佐藤文彦	10,000
光澤智吉	10,000	岡田修一	10,000	池田典子	10,000
福元征四郎(福元歯科医院)	10,000	高瀬寛照(若杉山文殊院)	10,000	杉本 登(杉本歯科医院)	10,000
武部道孝(武部道孝税理士事務所)	10,000	金藤哲明(金藤歯科医院)	10,000	中川哲也	10,000
島田文雄	10,000	川原 健	10,000	山口雅子	10,000
和智凧子	10,000	田中公也(空港前田中医院)	10,000	村上信子	10,000
村山佳朗	10,000	聖峰会マリン病院	10,000	石橋明人(石橋内科循環器科医院)	10,000
生田 潔	10,000	山川信夫(山川工務店)	10,000	金 長壽((医)おりお心クリニック)	10,000
吉田黎子	10,000	島松昌由(島松循環器内科クリニック)	10,000	高口秀夫((医)秀治会 高口歯科医院)	10,000
松田和実	10,000	西岡雄二(西岡病院)	10,000	岩永安弘	10,000
乙藤秀臣	10,000	佐藤隆昭(成道寺)	10,000	牛島 進((医)健進会 牛島歯科医院)	10,000
阿利澄雄	10,000	渡辺邦子	10,000	船越睦子	10,000
山手誠之助	10,000	曾爾 彊	10,000	大串秀明((医)大串クリニック)	10,000
(有)吉塚酒店	10,000	萬年浩雄	10,000	高宮義臣((医)高宮外科内科医院)	10,000
匿名	10,000	佐野玄秀(専宗寺)	20,000	倉成太郎	10,000
木上勝征(弁護士)	10,000	松本一郎((医)松本小児科医院)	10,000	待井弘道	10,000
山口祐司(福岡浦添クリニック)	10,000	稲村鈴代(弁護士)	10,000	櫛島田電気商会	10,000
林 幹男	20,000	藤見 是((医)藤見胃腸科内科医院)	10,000	浄土真宗本願寺派 託乗寺	10,000
太田輝幸	10,000	佐藤光昭	10,000	山名敏子((医)山名としこ眼科)	10,000
高宮紘士	10,000	合屋四郎	10,000	佐藤好史	10,000
		清水 浩	10,000	高崎好生(高崎小児科医院)	10,000



中村幸泰((医)ひのでクリニック)	10,000
松永伸二((医)まつなが小児科医院)	10,000
宇都宮英人(宇都宮法律事務所)	10,000
久保カヨ子	10,000
八島梯子	10,000
岡田象二郎((医)岡田こどもクリニック)	10,000
家入浩二(家入歯科医院)	10,000
古林聖子	10,000
桃原健二(桃原法律事務所)	10,000
田中俊孝(たなかメンタルクリニック)	10,000
松原妙子(弁護士)	10,000
清水義之(清水矯正歯科医院)	10,000
諸岡達也(諸岡小児科医院)	10,000
諸岡智子(諸岡小児科医院)	10,000
山口雅弘(株)山口商事)	10,000
久能はる子	10,000

**賛助会**

坂本朱美	5,000
正田理子	2,000
國代壽美子	10,000

高原信一	5,000
西宗寺	5,000
五斗みち子	5,000
原田モト子	2,000

**法人会**

(医)心和堂 後藤クリニック	30,000
(株)愛しとーと	30,000
アズビル金門(株)	30,000
ジャパン福岡ペブシコーラ販売(株)	30,000
(医)益田クリニック	30,000
(株)開聖リアルエステート	30,000
(株)西日本シティ銀行	100,000
(株)九州エース電研	300,000
西日本技術開発(株)	30,000
九州石井運輸(株)	30,000
越智産業(株)	30,000

**一般寄附**

光澤智吉	10,000
福岡いのちの電話 事業ボランティア会	100,000

福岡いのちの電話 後援会	1,700,000
鴨川順子	2,000
執行好子	30,000
山本寿子	4,000
関根敏子	5,000
匿名	3,000

**助成金**

(社福)朝日新聞厚生文化事業団	150,000
(公財)毎日新聞西部社会事業団	100,000

**支援自販機募金**

(財)恵愛団(九州大学病院内)	103,204
西部ガス(株)(バピヨン24内)	149,647
(有)ダイキ通信工業(自社内)	18,492
南蔵院(JR城戸南蔵院駅)	35,240
(株)西日本新聞社(本社)	61,299
(株)西日本新聞社(製作センター)	33,457
(株)福岡住宅センター(鳥飼1丁目パーキング)	4,219
福岡県弁護士会(福岡県弁護士会館内)	3,317

**ご寄附は下記の振込先までお願いします**

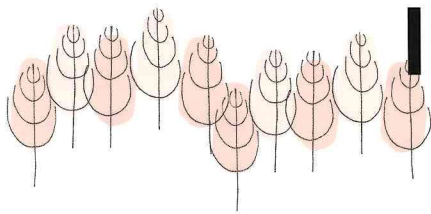
銀行口座：口座名義＝社会福祉法人 福岡いのちの電話  
 福岡銀行赤坂門支店 (普) 1147617  
 西日本シティ銀行天神支店 (普) 2131458  
 郵便口座：福岡いのちの電話千人会(千人会) 01710-1-36652  
 福岡いのちの電話(賛助会員・一般寄附) 01720-9-1037

千人会 1口1万円/年(何口でも)  
 賛助会 1口2千円/年(〃)  
 法人会 1口3万円/年(〃)

ご面倒をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

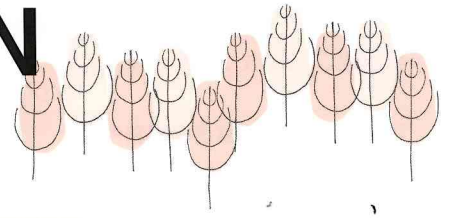
**税制の優遇措置があります**

社会福祉法人の認可を受けておりますので、寄附をされた場合、法人の場合は損金扱いに、個人の場合は年間所得の25%まで寄附控除が受けられるといった、税制上の優遇措置の対象となります。また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



# INFORMATION

## インフォメーション



日誌 2019.3.1~2019.5.31

### 3月

- 1 福岡県自殺対策強化月間・街頭啓発
- 第12回教育委員会
- 第2回拡大教育委員会
- 2 自主研修「ケースと私」
- 5 広報活動班会
- 6 第44期生養成講座  
(講師：松尾 公孝氏)
- 受信資料検討班会
- 9 九州・沖縄地区研修担当者研修・会議(福岡)
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 12 事業ボランティア手づくり会
- 14 朝日新聞厚生文化事業団寄附金贈呈式(北九州)
- 相談活動運営委員会
- 16 インターネット相談研修  
リフレッシュ研修
- 17 電話ボランティア養成サポーター自主研修
- インターネット相談運営委員会(東京)
- 18 事務局会議
- 20 第44期生養成講座(演習①)
- 12 事業ボランティア手づくり会

- 第12回理事会
- 28 社会資源班会
- 30 研修運営班会

### 4月

- 1 会報137号発行
- 3 第44期生養成講座  
(講師：川谷 大治氏)
- 第1回教育委員会
- 7 イオン幸せの黄色いレシート贈呈式(志摩店)
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 11 相談活動運営委員会
- 13 自主研修「ケースと私」
- 17 受信資料検討班会
- 第44期養成講座(演習②)
- 18 事務局会議
- 23 事業ボランティア手づくり会
- 第1回理事会
- 24 研修運営班会
- 25 会報企画会議
- 社会資源班会
- 29 広報班会

### 5月

- 1 第44期生養成講座

(講師：福盛 英明氏)

- 8 監事監査
- 社会資源班会
- 第1回教育委員会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 11 インターネット相談運営委員会(東京)
- 13 評議員選任解任委員会
- 14 事業ボランティア手づくり会
- 第1回事業ボランティア例会
- 15 受信資料検討班会
- 第44期生養成講座(演習③)
- 16 相談活動運営委員会
- 18 第1回全体研修  
(講師：加藤 博仁氏)
- 21 事務局会議
- 23 第2回理事会
- 24 日本いのちの電話連盟総会(東京)
- 25 「事務局長研修(東京)
- 自主研修「ケースと私」
- 27 曜日班世話人会
- 28 事業ボランティア手づくり会
- 29 第44期生養成講座  
(講師：衛藤 暢明氏)

## 【編集後記】

「文化の力で平和な世の中を」と願って命名されたという「令和」。新しいスタートを切ったばかりの5月に、痛ましい無差別殺傷事件が起きてしまいました。無差別ではなく、明らかに自分より弱い者を狙ったきわめて卑怯な犯行と言わざるをえません。何の罪もない人が、無抵抗な子どもたちが犠牲になるのは許し難い卑劣さです。他人を傷つけることで自分の感情を処理するなど、あってはならない事件が後を絶たないのはなぜなのでしょう。話をする、話を聴くということこそ、平和のための最大・最善の方法ではないかと思うことがあります。不満や愚痴を吐き出す、苦痛をさらけ出す、焦りや嫉妬を解放する。マイナスな感情を溜め続けると自家中毒になってしまうかもしれません。命の危機に直接関わる相談でなくても、危うい状況を抱えている人は少なくありません。せめて受話器を通して吐き出すことで生きやすくなるのなら、と私は考えます。ささやかな一助に過ぎませんが、全国49カ所約6,600人の相談員が支えてくれることをもっともっと社会に伝えたいです。

(広報班 M・T)

### 2019年3月~2019年5月

電話受付件数

受付件数	3,027件
延べ相談員数	1,030人
延べ受信時間	111,594分

### 発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7  
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス

<http://www.f-inochi.org/>

発行人 林 幹男  
編集人 古賀 俊次



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。